



発行所: 有限会社 西川工務店
 松阪市町平尾町164-3
 TEL 0598-51-7040
 FAX 0598-51-7140
 URL <http://www.nishikawakoumuten.com/>

狭小敷地への対応

狭かったり、変形だったり、隣近所が密集していたり敷地の形状や条件は様々です。難しい条件の敷地に快適な家を建てるには敷地の個性に上手に対応した様々な工夫が必要です。狭くても明るく、より広々と快適に暮らす為のポイントをご紹介します。

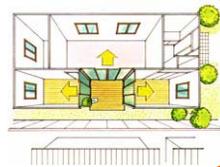
■光と風を最大限に採り込む工夫

1. 吹き抜けの有効活用

吹き抜けは光を上手に採り入れて家の中を明るく開放的にする効果があります。特に暗くなりがちな玄関や廊下に吹き抜けを設ければ、閉鎖感を解消し、上部の窓から光を採り込む事ができます。

2. 中庭の利用

家の中心部に中庭を設けて、光と風を効果的に採り入れます。中庭の演出で光が届かない部屋も明るくでき、実際の空間以上の広がりを感じる事もできます。特に細長い敷地で家の中心部を明るくしたい場合に有効です。



3. 開口部の工夫

より積極的に光を採り入れるには、窓の工夫も重要なポイントです。角部屋にコーナー窓をつけて2面採光する、北側の部屋や階段上部に天窗を取付けるなど、窓の工夫でもより光を採り入れる事ができます。



■収納プランの工夫

1. 小屋裏収納

収納スペースが取れない場合は、小屋裏を作ってみては？ 小屋裏は、高さ1.4m、直下階の床面積の1/8以内なら床面積に算入されません。

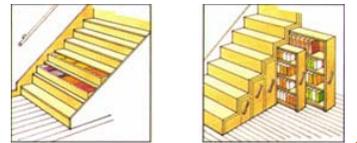


2. 壁面収納

壁の厚みも収納スペースとして利用できます。例えば、廊下の壁厚を利用すれば、奥行き10~15cmの文庫本やカセットテープなどの収納スペースになります。

3. デッドスペース活用

階段下やキッチンの床下、玄関や上がり框の下など、使っていない場所は意外とたくさんあるものです。そのデッドスペースを収納スペースにすれば居住スペースを減らさずに収納スペースを確保できます。



■空間演出でより広く暮らす工夫

1. LDKをより広く見せる

LDKをそれぞれ独立させないで、できるだけ一体空間として利用すれば、より広く見せられます。また、床に段差をつけたり、壁に角度をつけるなど空間に変化を持たせることで、より広く感じる事ができます。

2. スペースを立体的に使う

例えば2部屋の子供部屋を、ベッドの上や下の空きスペースを立体的に利用します。



3. ロフトの有効活用

ロフトは高さ1.4m以内、面積が直下階の1/8という制限を守れば床面積に算入されません。子供部屋のベッドルームや収納スペース等、多目的にアレンジできます。

4. 吹き抜けや視覚的変化の活用

吹き抜けを使った上下方向の空間の広がりや心理的な開放感を感じる事ができます。玄関ホールだけでなく、リビングやダイニングにも活用できます。又、出窓・勾配天井・低い家具などを使う事で視覚的に実際より広く見せる演出ができます。

5. リビング階段

廊下を少なくする事が居住スペースを広く確保するポイントです。廊下にある階段をリビングやダイニングに設置するとその分部屋を広く使う事ができます。



■建物外部の活用

1. アプローチの工夫

玄関を開けた時に、道路から家の中が見えないようにアプローチを曲げたり、玄関ドアと門をずらすのも良い工夫です。



2. ビルトインガレージ

建物の中にガレージを組み込んだビルトインガレージは、延床面積の20%までなら容積率の計算外となります。ガレージ無しの場合の1.2倍の家を建てる事が可能に。



3. バルコニーやサンルーム

2階に大きめのバルコニーをつくれば、光あふれる「2階の庭」に。2階リビングと組み合わせるとより効果的です。

**新築・増改築は
もちろん、キッチンや
トイレの改修など
ちょっとした事でも
お気軽に
ご相談下さい！！**

定休日のご案内

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

※丸の付いている日が定休日です。